

ま え が き

急激に変化する時代の中においては、一人一人の児童生徒があらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要です。そのため、主体的に学んで必要な情報を活用し、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくための力が必要になります。このような力を生徒一人一人に育むためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を活用して、現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育んでいくことが重要となります。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 では、生徒の日々の学習や生涯にわたる学びの基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を、生徒の発達の段階を考慮し、それぞれの教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点で育んでいくことができるよう、教育課程の編成を図ることとしています。

そこで、まず令和4年度は、問題発見や課題解決の能力等の育成に向けて、小学校における教科等横断的な学習な実践事例をとりまとめました。令和5年度は、中学校における教科等横断的な学習について好事例を挙げ、日々の授業改善につなげていきたいと考えております。小学校においては、各教科・領域の指導を学級担任が行うため、日々の学習の中で学習内容をつないでいくこともできますが、中学校においては、教科担任による指導のため、事前に綿密に計画し、複数の教員が協働的に教科等横断的な学習に取り組む必要があります。この取組が学校のカリキュラム・マネジメントの充実につながっていくこととなります。

なお、実践例は、あくまでも参考事例の位置付けであり、当然のことながら各学校においては、生徒や地域の実態を踏まえた、創意工夫ある授業実践が望まれます。

こうした意味で、この指導実践集が各学校における研修活動や日々の教育実践の参考として活用されれば幸いです。

最後に、本指導実践集の作成に当たり、御尽力いただきました教育課程推進会議会長、副会長、推進委員、研究協力校協力委員の皆様方に対し、心から感謝の意を表します。

令和6年3月

千葉県教育庁教育振興部学習指導課長

石 川 康 浩